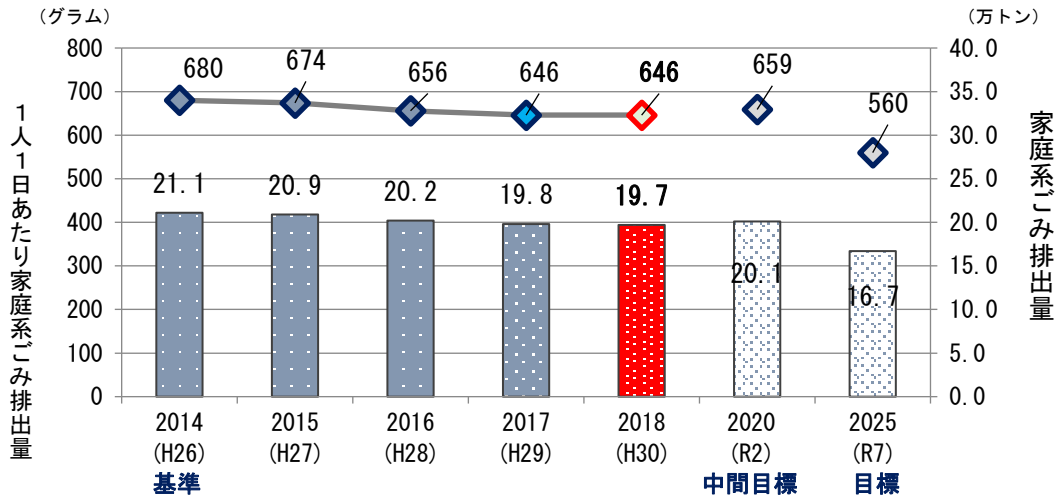


第 3 次堺市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画目標の進捗状況について

1. 1人1日あたり家庭系ごみ排出量

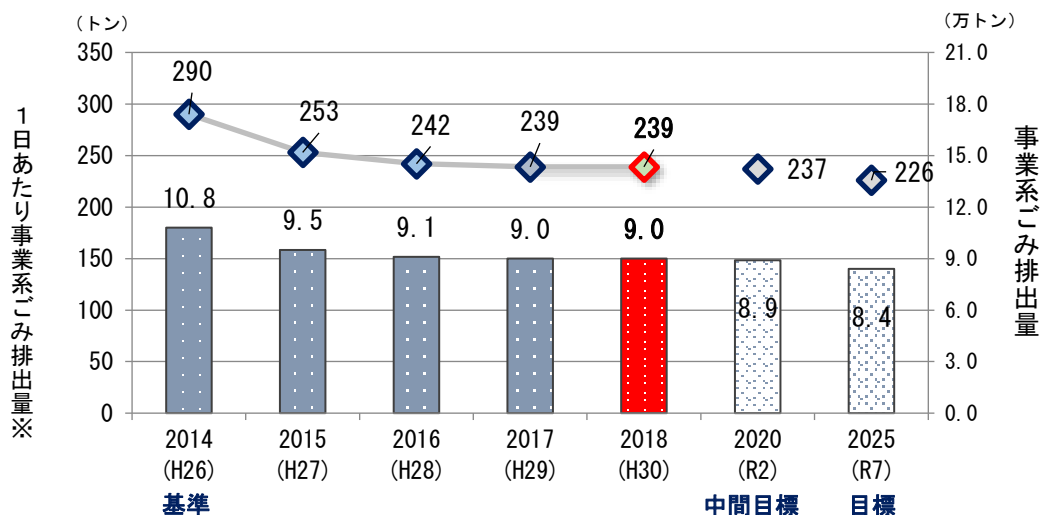
※2018 (H30) 年台風 21 号による災害ごみを除く



- 2014（平成 26）～2018（平成 30）年度に、34 グラム減少しており、2016（平成 28）年度に、中間目標（659 グラム）を前倒しで達成している。
- 2019（令和元）年度は、2018（平成 30）年度とほぼ横ばいで推移している。（令和元年 10 月現在）
- 最終目標の達成に向けて、更なる減量化・リサイクルに取り組む必要がある。

2. 1日あたり事業系ごみ排出量

※2018 (H30) 年台風 21 号による災害ごみを除く

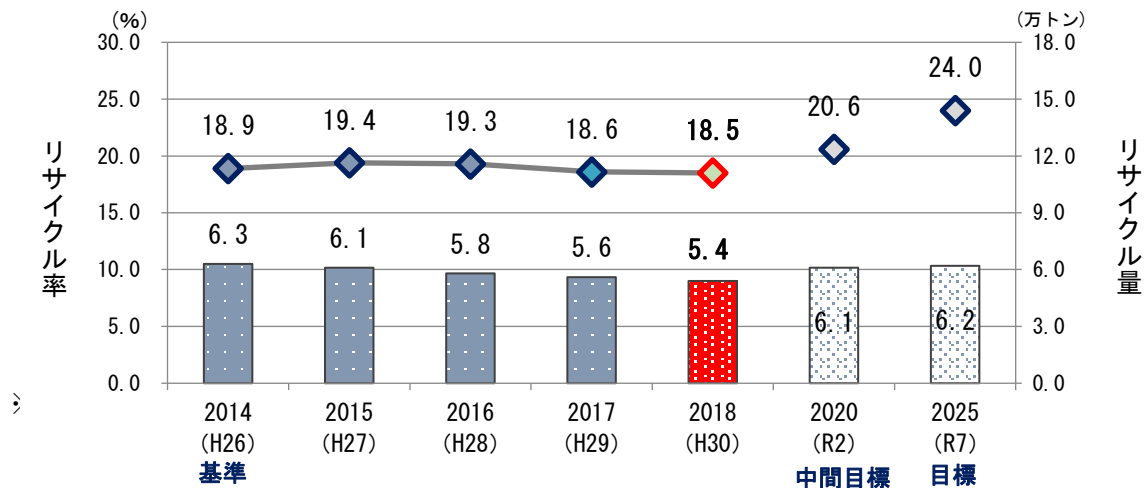


※事業系ごみ排出量から自主資源化量を引いて算出

- 2014（平成 26）～2018（平成 30）年度に、51 トン減少している。
- 2019（令和元）年度は、2018（平成 30）年度とほぼ横ばいで推移している。（令和元年 10 月現在）
- 事業者による発生抑制・資源化の取組や社会経済情勢の影響など複合的要因があると考えられる。

3. リサイクル率（事業系一般廃棄物減量等計画書の報告値を含めない場合）

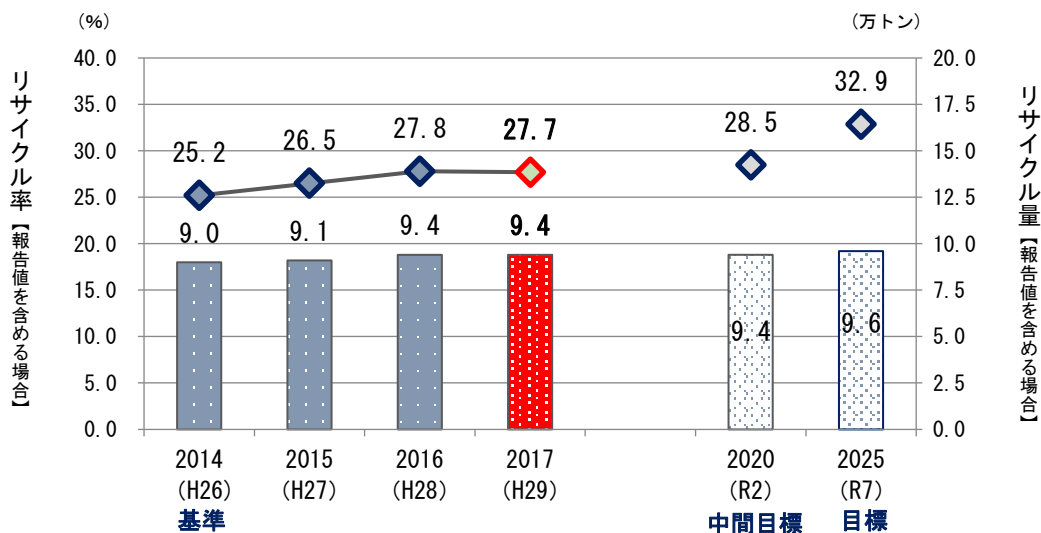
※2018(H30)年台風21号による災害ごみを除く



- 2014（平成26）～2018（平成30）年度はほぼ横ばいで推移しており、0.4ポイント減少している。
- リサイクル量の約4割を占める集団回収は、2014（平成26）年度から約6,500トン減少しており、リサイクル率低下の要因の1つとなっている。
- 2019（令和元）年度集団回収量前期分（平成31年2月～令和元年7月）は、約800トン減少している。
- 中間目標（20.6%）の達成は難しい状況にある。

4. リサイクル率（事業系一般廃棄物減量等計画書の報告値を含める場合）

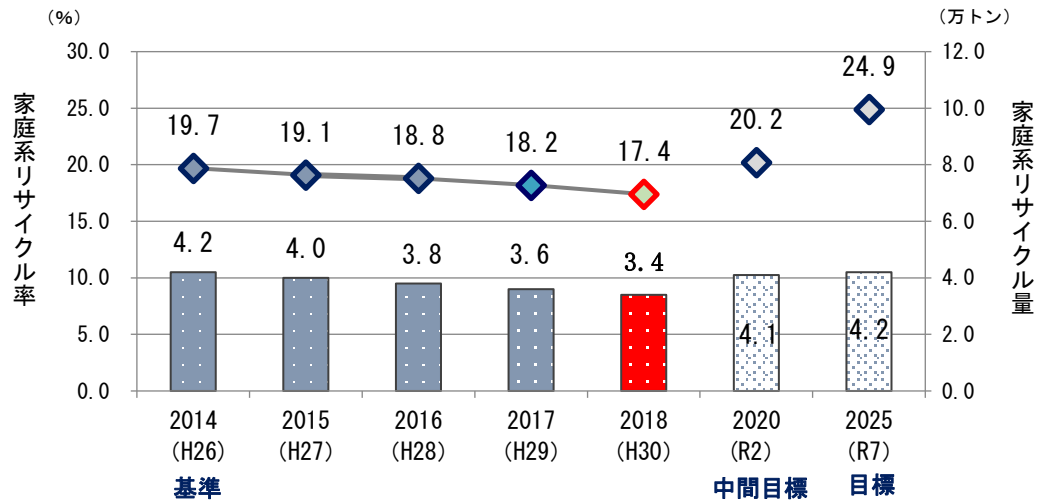
※2018(H30)年台風21号による災害ごみを除く



- 2014（平成26）～2017（平成29）年度は増加傾向にあり、2.5ポイント増加している。
- 事業系一般廃棄物減量等計画書による資源化量は、2014（平成26）～2017（平成29）年度で約4,000トン増加しており、リサイクル率上昇の要因となっている。

5. 家庭系リサイクル率

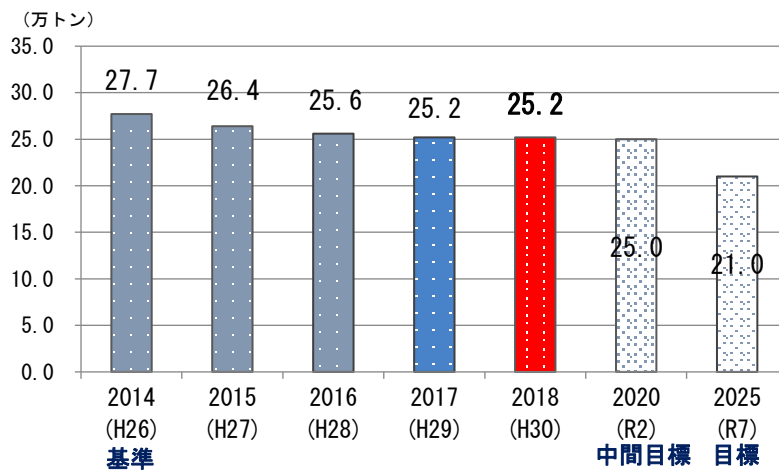
※2018(H30)年台風21号による災害ごみを除く



- 2014（平成26）から2018（平成30）年度は年々減少しており、2.3ポイント減少している。
- 家庭系リサイクル量の約6割を占める集団回収は、2014（平成26）年度から約6,500トン減少しており、家庭系リサイクル率低下の要因の1つとなっている。
- 2019（令和元）年度集団回収量前期分（平成31年2月～令和元年7月）は、約800トン減少している。
- 中間目標（20.2%）の達成は難しい状況にある。

6. 清掃工場搬入量

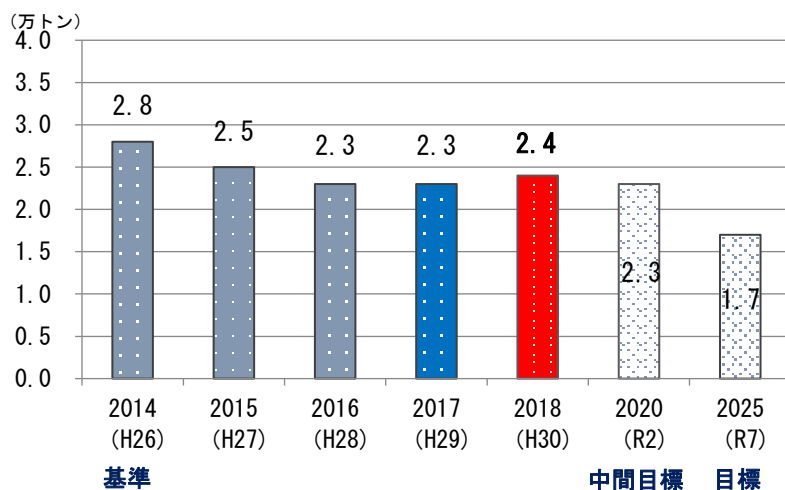
※2018(H30)年台風21号による災害ごみを除く



- 2014（平成26）～2019（平成30）年度は年々減少しており、2.5万トン減少している。
- 2019（令和元）年度は、2018（平成30）年度とほぼ横ばいで推移している。
- 家庭系、事業系ごみ総排出量の減少に伴い、清掃工場搬入量も減少している。（人口減少による自然減少を含む）

7. 最終処分量

※2018 (H30) 年台風 21 号による災害ごみを除く



- 2014（平成 26）～2016（平成 28）年度までは微減していたが、2017（平成 29）、2018（平成 30）年度は、微増している。
- 2017（平成 29）、2018（平成 30）年度の微増については、工場間における搬入量調整や台風 21 号の影響により灰発生率の上昇などが要因としてあげられる。